

川井 梨紗子

レスリング



文／佐藤双葉（編集部）
撮影／築田純

TOKYO 2020

Risako Kawai

Wrestling

アスリートの肖像

女子レスリングといえば、今や五輪で日本人選手が活躍する競技だと認識している人も多いだろう。実際、2004年のアテネ五輪で正式種目になって以来、伊調馨選手の四連覇、吉田沙保里選手の三連覇など、多くの選手が輝かしい成績を残している。

16年リオデジャネイロ五輪で、63 kg級を制した川井梨紗子選手もその一人だ。本来は伊調馨選手と同じ57 kg級だったが、直接対決を避けて戦った一つ上の階級で金メダルを獲得。その後、東京五輪に向けて57 kg級で戦うことを決め、伊調馨選手と激しい代表争いを繰り広げたことは記憶に新しい。「馨さんはずっと憧れの人で、これまでこの階級で、馨さんにだけ勝てなかったんです。だから、勝てれば代表になれると信じて戦いました」。

姉妹で 目指す 金メダル

そう語る川井選手は、日本代表の権利を手にして出場した世界選手権で見事優勝。東京五輪の出場を決めた。

「国内の選考会で勝っても、五輪の出場権を取れなかったら、私じゃなくてもよかったと思われる。私が五輪に出てよかった、と皆さんに思ってもらえるよう、恥じない試合をしたいです」

4年に一度、さらに自国開催。そんな

大きな舞台に、川井選手は妹の友香子選手と共に立つ。「二人で五輪に出ることは夢でした。友香子がいってくれるから、お互い頑張れたのだと思います」と微笑む顔から、姉妹の、そして家族の絆の深さが伝わってきた。

「どんな時でも、私の周りには『大丈夫』と言ってくれる家族がいる。落ち込んでいても、家族に話すだけで気持ち切り替えられるんです。なんだからもう、黙ってられないんですよ（笑）」

いよいよ近づいてきた東京五輪。「もう半年もない、きつとあつという間です。東京五輪はいつもと違う緊張感もあると思うけれど、自国開催は貴重な経験なので、姉妹で金メダルをねらいます」。

表彰台の一番高いところに、姉妹で立つ日はもうすぐそこだ。 **S**

かわい りさこ／1994年、石川県生まれ。ジャパンビバレッジ所属。レスリングをやっていた両親の影響で、小学2年生の時に競技を始める。強豪・至学館高校に進むと、16、17歳世代が出場する世界カデット選手権で世界一に。至学館大学進学後もその実力を伸ばし、2016年リオ五輪では63 kg級で金メダルを獲得。2017年から世界選手権で3連覇を達成。妹の川井友香子選手も62 kg級で五輪代表に内定している。

